

文理科学科

福高はあなたの「みらい」を応援します！

平成 22 年度 文理科学科説明会 開催

多くの中学生・保護者の皆様が参加！

10月3日（日）の午後、平成 22 年度「文理科学科」説明会を本校で開催しました。当日は中学 3 年生、中学 2 年生、保護者、引率の先生方合わせて約 120 名の方々が参加され、文理科学科への関心の高さがうかがわれました。説明会は 3 部構成で実施されました。第 1 部の全体会では、坂根校長先生の挨拶のあと、在校生を代表して、1 年生の川尻隆治君（舞鶴市立白糸中学校出身）と 2 年生の中井友也君（福知山市立成和中学校出身）が、現在の高校生活についての報告を行いました。落ち着いた雰囲気での学習環境、部活動と学習の両立の大切さなどについて自分の体験談を語りました。また、四方かおりさん（綾部市立豊里中学校出身）が今年の 7 月に行われた宿泊研修についての報告をパワーポイントを使用して報告しました。次に本校文理科学科第一期卒業生の直田真里君（京都大学理学部 1 回生）と時武佑太君（東京大学理科 I 類 1 回生）が中学生に向けて文理科学科の素晴らしさについて語ったビデオメッセージを司会担当の放送部が代読し、また、直田君の在学時代の研究発表の様様をビデオで上映しました。その後、本校文理科学科推進部長の足立先生が文理科学科独自の科目である「みらい学」についての学習内容の解説と本年度の研究活動について紹介し、次いで本校文理科学科 1 年生（2 班）が京都大学大学院経済学研究科教授植田和弘先生講演の際に提示していただいた 5 つの研究テーマの中から「中国経済の今後の 10 年の動向とその日本経済への影響」と「高齢化社会と介護保険の将来」について、日頃の研究成果を発表しました。



第 2 部は学年別プログラムとして行われました。中学 3 年生は、本校教員による文理科学科の昨年度の適性検査問題（英語・数学・国語）解説とその対策を聞き、中学 2 年生は、学校紹介ビデオを見て、中国研修旅行と福知山高校のいろいろな取組についての説明を聞き、最後に施設を見学しました。

第 3 部は再び全体会で、文理科学科生徒の学習状況や今後の日程及び入試についての説明を受けました。

約 3 時間にわたる文理科学科説明会を通して、文理科学科の教育活動が多くの中学生や保護者の皆様に理解していただき、進路選択の参考になれば大変嬉しく思います。ぜひ自分の「みらい」「夢」の実現に向けて福知山高校文理科学科にチャレンジしてください。

「みらい学Ⅰ」特別講義 第4弾

京都地方検察庁検事 奥谷千織先生 テーマは「法学」

本年度最後の「みらい学Ⅰ」特別講義を10月15日（金）に実施しました。今回は京都地方検察庁の奥谷千織検事から、「法学」に関する「検察業務と刑事手続の基本的な流れ」というテーマについて学びました。警察官と検察官の職務の違い、裁判・判決に至る刑事手続の流れ、裁判員制度の仕組み、被害者対策の取組など現職検事の立場から最前線の知識を教えてくださいました。また「死刑制度について」「犯罪被害者対策」「裁判員制度」「司法制度の外国との比較」という4つの課題を提示していただき、生徒達は今後このテーマをもとに研究活動に取り組みます。

1年6組 柴田 青葉 桃映中学校出身

今日は「法学」をテーマに奥谷さんに検察や裁判員制度について聞きました。宿泊研修の時、大阪の裁判所へ行って本当の裁判を見てきた時は、何がどうなっているのかよくわからなかったけれど、今日の話で少しわかった気がします。あのときは本物の犯罪者が目の前にいるという事実に緊張し、ただ、ドキドキしながら見ていただけでしたが、また行く機会があれば、きちんと仕組みを理解した上で、しっかり見たいです。私は進路をまだ模索中なので、法学への関心も少しあり、勉強になりました。進路選択の幅が広がり、よかったですと思います。



みらい学Ⅱ研究交流会

文理科学科2年生が今年の4月より進めてきた研究活動の成果を発表する「みらい学Ⅱ」研究交流会を9月29日（水）、10月13日（水）、10月27日（水）に開催しました。それぞれの生徒が本校教員や京都大学の先生方のアドバイスのもとに研究してきたその研究成果をパワーポイント形式で一人7分ずつ発表しました。この交流会はみらい学研究発表会の選考会を兼ねています。



みらい学第3回研究発表会

研究成果を市民の皆様の前で堂々と発表!

11月6日(土)の午前中、「みらい学 第3回研究発表会」をマリアージュ福知山で開催しました。この研究発表会は文理科学科の特色ある教育活動である「みらい学」の研究成果を広く市民の皆様発信する場として毎年開催しています。文理科学科2年生は4月より「みらい学Ⅱ」の授業において、自分の興味あるテーマについて研究活動を進めてきました。3回に及ぶ研究交流会で特に優秀な研究成果を発表した5名を選出し、代表として発表しました。また、研究発表以外に、2年間にわたる「みらい学」の学習を終えての体験発表も行いました。

当日は坂根文伸校長先生、京都府教育庁指導部高校教育課首席総括指導主事山岡弘高様より御挨拶をいただき、来賓紹介後、研究発表が始まり、代表生徒たちは多くの聴衆の前でそれぞれ堂々と発表しました。

○上治 侑真君(福知山市立六人部中学校出身)

「藤原定子 ～強く生き抜いた女性～」

枕草子に登場する、中宮藤原定子について研究した。枕草子の中に見える彼女はとても美しく、よく笑い、夫婦仲も良い幸せな女性である。しかし、歴史的背景をひも解くと…彼女が生きていたのは藤原氏全盛期の摂関時代。父藤原道隆が生きていた頃はとても華やかだったが、父が死ぬと彼女の人生は一変したという事実が分かった。つまり彼女は転落し、辛く苦しい人生を、清少納言らとともに笑って明るく楽しく生きていたのだ。彼女はとても強い女性であった。

○外賀 葵さん(福知山市立日新中学校出身)

「細野正文氏と“不沈船”タイタニック号」

タイタニック号沈没事件に関して、犠牲者の増大理由と当時の日本の精神について研究した。調べた結果、犠牲者の増大理由は技術だけが問題ではなく、不沈船としての認識や身分階級によって命の価値がはかられたことにもあったこと、当時の日本の美や命に対する考え方の違いにより人生を奪われた日本人がいたことが分かった。命は身分によってはかられるべきではないし、また時代の精神の犠牲となった人を調べ、掘り起こすことは必要であり、それが歴史に対して私ができる唯一のことであると改めて思った。

○森山 賢君(福知山市立桃映中学校出身)

「福知山経済の変貌」

福知山経済は戦後、商工業によって発展した。商業は当初、商店街を中心としていたが、2つの都市型大型店によって商業構造が大きく変わり、駅前周辺が栄えた。その後、法改正により市内にも郊外型大型店やロードサイド店舗が進出し、駅前には衰退。一方で駅南は先行して開発が進み、地価の上昇とさらなる出店が見込まれている。工業は長田野工業団地の立地によって、一定の雇用を生み出している。今後とも計画どおりのインフラ整備を含めて、地域の特色を出し、一地方都市としての自立した経済が求められる。



○志賀 萌さん(綾部市立綾部中学校出身)体験発表「みらい学の学習から得たこと」

この一年半の学習を通して、クラス全員の視野が広がり、成長したことを実感しています。

みらい学で得た貴重な経験を活かし、希望進路実現に向けて残りの高校生活をさらに有意義なものにしていきたいと思います。



○谷沢 駿君(福知山市立六人部中学校出身)

「音楽が与えるもの」

現代社会はストレス社会と言える。音楽の力でストレスを軽減させることはできないだろうか。音楽療法には様々な種類のものがあるが、能動的音楽療法では自らが表現することで自発性や自発的活動を引き出すことができる。その結果自分に自信が持てるようになる。また「α波1/f ゆらぎ効果」というリラクゼーション法も注目されてきている。音楽は胎教・育児・医療・教育にも活かすことができる。いずれも良いとされているのは、自分の好きな音楽を聞くということ。音楽は人の心身を動かすものである。



○神田 崇宏君(福知山市立日新中学校出身)

「GNH ～幸せのものさし～」

ヒマラヤの仏教国ブータンは、経済的には豊かではないが、「幸せ」な国を実現している。その秘訣はGNH：国民総幸福度にあった。国の豊かさを測る指標として最も一般的なものはGDPだが、GDPで測れる豊かさには問題があると指摘されている。そんな中、国の豊かさを幸福度で測ろうというGNHは実に興味深い。数値化が難しいという理由から導入が進んでいないGNHだが、今回の研究では、ブータンを参考にしてGNHを独自に算出し、日本・アメリカ・スウェーデンの3カ国のGNHを比較し、考察した。



感想 2年5組 渡部 千里

約2年間、みらい学の学習を進めてきて、そして終えて、もともと知識があまりない状態で、まず「知る」ことから始め、そして、「研究」するということまでもってくるのは本当に難しいことなのだと思います。研究するだけでなく、人の前で発表するというのもみらい学であり、将来プレゼンテーションをする際に絶対にこの経験は役立つと思います。みらい学を通して、普通に勉強するだけの高校生活ではきっと味わえないだろう挫折や苦労、またそれを乗り越えたときの達成感を感じることができました。内容が未熟でも、自分から主体的に調べ、考え、それを言葉で表現するという経験は少なからず自分を成長させてくれたと思います。特にこの半年は自分自身と深く向き合ってきました。このみらい学でやり残したことがまだあるので、大学など、これからの人生でこの経験を活かすときは今回やり切れなかった悔しさをバネに納得できる発表をしたいです。

本年度、みらい学の研究活動では、研究内容をさらに充実させるために、京都大学連携講座として京都大学の先生方に直接御指導いただきました。研究発表終了後、今回指導いただいた4名の京都大学の先生方を代表して、京都大学大学院情報学研究所で准教授として御活躍の荒井修亮先生から御講評をいただきました。荒井先生は、それぞれの生徒の発表に対して、新しい発見が見られ、ユニークで発表にも工夫がなされていたと述べられました。

「みらい学」の研究活動を通して、生徒たちは、学問研究に対する興味・関心を高め、また研究レポート作成や効果的なプレゼンテーション技術を身に付けることができました。この成果を、今後の学習活動、進路希望の実現にいかしてほしいと思います。